

# 教への庭から

お地藏様は、道路脇などの身近な場所に仏像があったり、子どもの頃にふれる昔話、例えば「笠地藏」などに登場することなどで比較的よく知られています。

出雲地方には昔から、私たちの身近な縁者が亡くなされた場合、お寺にある六地藏様を巡拝する風習があります。その時は、紙の札の中央に「南無六道能化地藏願王菩薩」または、省略形で「南無地藏大菩薩」と書き、脇に亡者戒名の為書と施主名を書いたものをお地藏様に貼りつけます。その後、参拝者は、般若心経を唱えて、亡き人を供養します。

仏教の世界では、お釈迦様が入滅された後56億7千万年後に、この世を救った

## お地藏様を巡拝する

出雲市斐川町・仁照寺住職 江角 弘道

め弥勒菩薩が現われるときの間は、「中陰」といって、れていますが、その間地藏菩薩がこの世の私たちの苦しみを救ってくださいませ。なぜ六地藏参りをするか



挿絵 平尾恵郷

について、初七日法要の後で、次のように話しています。禅宗では死の瞬間に次の生が決定されず、四十九日

です。またその時いわゆる弁護士に相当する方は、不動明王様です。有名な裁判官は、三十五日目の閻魔大王です。その時の弁護士に相当する方は、地藏菩薩です。後に残された遺族は、七日七日ごとに追善供養を

みまします。そしてより良いところへ生まれ変わっていただくように願います。特に閻魔大王の裁判は厳しいので、弁護士のお地藏様にしっかりと弁護ください。この期間にはまた己の心に立ち戻り、自分の原点に立ち戻ります。自分の原点に立ち戻り、自分の人生を振り返る、そして己の心と書きまします。この期間はまた己の心に立ち戻り、自分の原点に立ち戻ります。自分の原点に立ち戻り、自分の人生を振り返る、そして己の心と書きまします。

地蔵札にある「六道」とは、衆生が自ら作った業により行く地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天の六つの世界です。お地藏様は、「六道能化の菩薩様」と言われます。能化とは能く教化し、ご利益を与えてくださるという意味で、お地藏様は、六道に分身して、それぞれの衆生をお救いください。だから、亡者が六